

## 「普通救命講習」の報告

場 所 : 下京消防署  
日 時 : 12月15日(日) 9時30分~12時30分  
講 師 : 下京消防署関係者4名  
受講者数: 37名(うち、スタッフ6名)

「もし、事故現場に遭遇した時、そこに居合わせた人が救命措置を行えば、救える命がある。周囲の人たちと協力し、勇気を持って、自分にできることを行動に移そう。」

上記の「講習のねらい」を明確に持ち、5班に分かれて講習を受ける。

\*心肺蘇生法の手順を知る。

\*実習用の人形を使用し、各自、以下の手順で実践をする。

- ・傷病者を発見する
- ・周囲の安全確認と反応の確認をする→人を呼び、119通報とAED手配の依頼をする
- ・呼吸の確認をする→普段通りの呼吸でなければ、心肺蘇生を行う
- ・胸骨圧迫30回→気道確保→人工呼吸2回を繰り返す
- ・AEDが到着したら電源を入れ、音声メッセージに従って操作する
- ・電極パッドを装着する→AEDの心電図解析後、必要であれば、通電ボタンを押す(電気ショック)
- ・直ちに胸骨圧迫を再開する
- ・音声メッセージに従い、2分後、電気ショックを行う
- ・救急隊員と交代するまで、周囲の人と交代し合いながら、胸骨圧迫を継続する

救急隊が到着するまでの間、側で立ち尽くす傍観者でいるのか、それとも、勇気を持って一歩を踏み出す自分になりたいのか、3時間の実技講習の中でずっと問われ続けている気がした。

さらに、居合わせた時間が生死を分ける時間であるのなら、救えるのは「救命技能認定証」を手にした自分の手、明確な指示を出し、素早く行動する勇気を持つとう！という自覚も芽生えてきた。

日頃からAED設置場所を確認する、定期的に救命講習を受ける、自分の周りに受講を勧める等、命を守る行動に敏感でありたいと思う。(R.I)